

経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県 吉見町

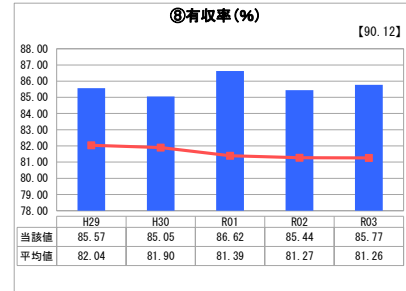
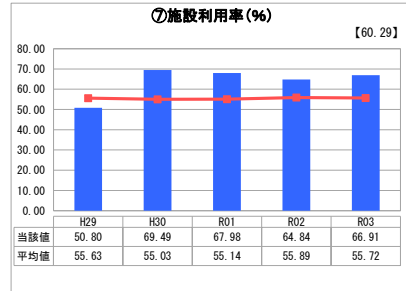
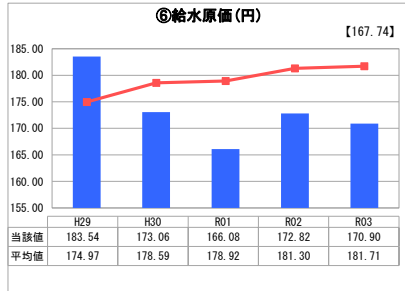
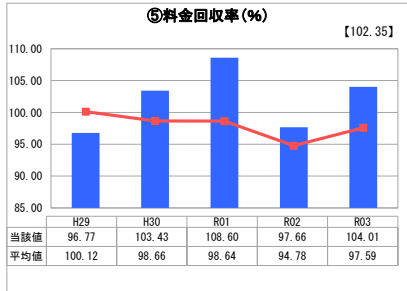
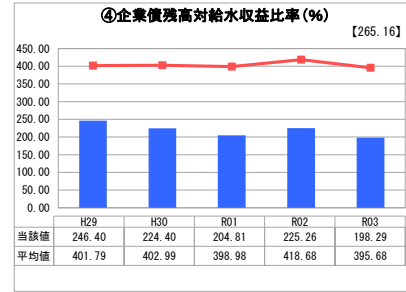
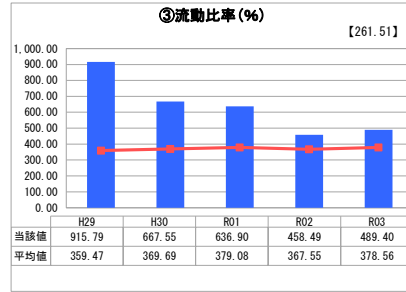
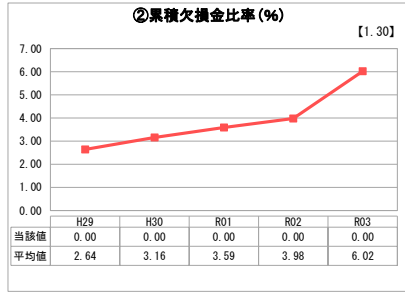
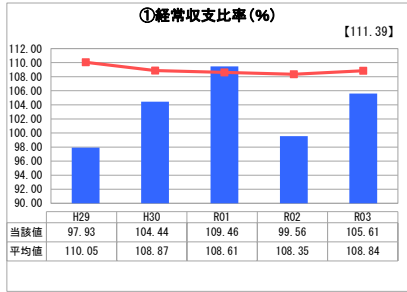
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	78.10	99.80	2,365	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,390	38.64	475.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,277	38.64	473.01

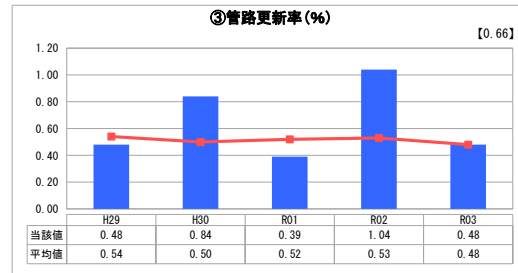
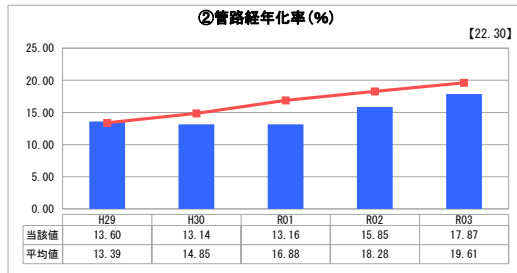
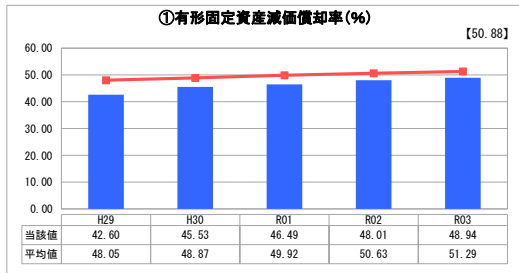
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率
経常収支比率は100%を上回り黒字となったが、類似団体平均を下回っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大口使用量が減少したことや、2か月分の基本使用料を免除したことにより給水収益が減少していたが、令和3年度は大口使用量が回復傾向にあり黒字となった。

②累積欠損比率
累積欠損金は生じていない。

③流動比率
100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払能力はあるが、建設改良費等の増加により、現金等の流動資産が減少しているため下降傾向にある。

④企業債残高対給水収益比率
企業債残高の減少により、数値が減少している。今後は施設更新に伴う借入により数値が上昇する見込みであり、状況に注視していく。

⑤料金回収率
大口使用量の増加による給水収益の増、及び長期前受金入りの増加により、料金回収率は100%を上回ることができた。

⑥給水原価
昨年度より有収水量が増加したため、給水原価は減った。類似団体平均を下回っており安価な原価で供給している。今後は人口減少とともに有収水量の減少が見込まれるためコスト削減に努める。

⑦施設利用率
使用量の増加により、1日平均配水量が増加したため、昨年度に比べ施設利用率は増加している。今後は人口減少等により数値が低下していくと考えられるため、ダウンサイジング等を検討していく。

⑧有収率
類似団体を上回っているものの、漏水等の無効水量をさらに減少させ有収率をさらに上昇させることが重要と考える。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率
類似団体平均を下回っているが、緩やかに上昇している。今後は経年による施設全体の老朽化が進み、上昇する見込みである。

②管路経年化率③管路更新率
管路経年化率は前年度より上昇しており、老朽化が進んでいる一方、管路更新率は前年度より低下し、0.48%に留まっている。これは、前年度に比べ口径の大きい管路の布設替工事を実施したため、更新延長が少なくなったことによるものである。施設更新については、吉見町水道事業ビジョン及び基本計画に基づき計画的に実施している。今後も引き続き、計確認に基づき継続的な施設更新を進めていく。

全体総括

本年度は給水収益が増加し、経常収支比率が100%を上回った。しかし、建設改良工事等の増加により、資金残高は減少傾向にあるため、経営の健全性・効率性としては良好とは言えない。今後は大口使用量の動向を注視するとともに、引き続き企業債の借入を実施し、適切な施設の維持管理、施設規模の見直し等を検討していく。また、来年度も有収率の改善に向けて、アセットマネジメント計画に基づき老朽化の更新及耐震化の促進に努めるほか、漏水調査を引き続き実施していく。

今後は、本町の水道事業ビジョンに掲げる基本理念である「より安全・安心で、しあわせを守る みんなの水道水」を目標に、安全な水道水と安定供給の確保のため、より一層の経営基盤の強化を図っていく。